
青春学校

ミルク様

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青春学校

【Nコード】

N5885F

【作者名】

ミルク様

【あらすじ】

桜井遥樹は12歳は普通の子。いじめ、恋愛、部活さまざまなものに出会う。中身は秘密！！青春ふぁいと！！

バレー100%

私は、桜井遥樹さくらいはるき私はいまごく普通の中学に通い、ごく普通の生活を送っている。

私が、流日中りゅうつかに通いはじめて01年がたとうとしていた。

私には02つの選択肢があった。小学06年のころ、中学校を決めるプリントが配られた。

選択肢は02つ。流日中か、代居中だいしゅうか。02つだけだった。

琉日中にいけば、大好きなバレーができる。でも、前の友達と離れなければならない。

代居中へ行けば、友達と離れなくて済む。しかし大好きなバレーができない。

私は友達をとるか、バレーをとるか。だった。

けっか、私はバレーをとった。

決めたきっかけは、友達とあそぶのはいつだってできる。しかし、
ばれーは、「今」しかできない。

きっと、代居中へ行きバレーをしなくなると、もう02度と私はバレーをしないと思う。

それが、怖くなり、私はバレーを選んだ。

そして、04月、入学式。私に新しい友達ができた。

相楽 眞美が話かけてくれた。それから順調に友達は増え、私は楽しく過ごしていた。

部活の勧誘??のプリントがくばられた。

わたしは、いちもくさんにバレーのところを見た。やっぱりバレー

一部に入りたい。

5月 私にはさらに友達が増えた。 咲田 麻耶 バド部のことでよく一緒に行動してた。

でも 私と麻耶は先輩にいろいろと目をつけられ。色々文句をいつてきたりする。 でも私と麻耶はきにしなかった。しかし ある日を境に幸せな生活が終わりを迎える。

それは 夏休み01か月前。

「眞美ー」

「……」

聞こえてないのかなア

「眞美^」

何回読んでも返事をしない。 えっ!!

私はこの時悟った。 聞こえていないんじゃない、聞こえているけど、返事をしないだけなんだ!!と。

私は 理由を考えた。 麻耶にも話かけてみた。 しかとはしなかったが

「あっ?何?」

みたいな冷たい反応だった。 しばらくして、私は学校が嫌になった。

でもそんなとき02人の女の子が私を支えてくれた。

名前は 桜井 みいと松長 小夜 この02人は私がいじめられている時も一緒にいてくれた。

それから、私は03人で行動するようになった。

でも、技術の時間、私は眞美の隣だった。 私をいじめている張本人は眞美だった。

私は 顔も見たくないほどいやだった。 だから眞美から席を離れた。

眞美はそれが気に入らなかったのか、私が教室へ帰ると眞美が私の席の、前にいた。

その時 眞美が笑いながら私の席を蹴ったのだ!!

私は涙がでた。 くやしい!! でもどうする事もできない。

数日後、いじめはやんだ。 眞美は少し先生から注意を受けていた。きっと理由はそれだ。

まだ 眞美達とは話していない。 きっとまだ話せない。そして――

夏休みが来た。 夏休み、特に予定はなく、部活ばかりだった。なんだか夏休みに入った気分にはならなかった。

何日か 部活やすみを利用して小学校の友達と遊びに行った。

夏休み13日前。 部活のルール上バレー部は夏休み12日前には終わらせないといけない。

明日までに提出だ。 /・・・

私は期限内提出が苦手だ。 そのためいつも先生に怒られていた。

今回もやっぱりためである。 期限内提出ができなかった人は部活

まえと部活あとカウンセリング室に集合しなきゃいけない。そして……宿題。

宿題が終わっていない人は私を含め女子02人しかいなかった。

もう01人のじよしは 飯田 弥生 私は弥生と一緒に教室へむかった。

初めてカウンセリング室にはいった。 外装もきれいだったが中もきれいだった。

でも部屋はせまく、台02つに座るところは、08つしかなかった。部屋は冷房が利いてて涼しい。

座るところは02つしか残っていなかった。 01つの台には02年が04人すわり、もうひとつの台には01年が02人座っていた。

部屋には男子06人女子02人という感じだった。

私たちは しょうがなく男子の前に座った。

私のまえにいたのは・・・

「遥樹！ 冴縞ありえないんだよ！！」

そう冴縞 涼， 弥生の前に座っているのは，

「松崎とあたしの宿題じゃましてくんだよ！！」

松崎 愁太だ。

「まじー？ ありえんね。」

初日はあまり話さなかった。

—— 次の日

「ねえねえ！ しゃべったらでこピンっていうゲームしよー」

いいよー。みんな賛成してくれた。 「じゃ よーい すたーーと！」

すると、冴縞が私たちを笑わせるために わざと超笑わせてきて、弥生が笑ってしまった。

わたしは 余裕だった。 そして 弥生はみんなからでこピンをされた。

次に笑ったのは —— 松崎だ。 松崎は笑ってないと言い張る。

でも 無理やりでこピン。

最初 冴縞を松崎は私がおとなしい感じに見えたのかあとからなんか最初おとなしそうに見えた（笑）

といていた。 私はよく言われるからなれていた。

そして

次の日 ——

宿題にカタカナがでた。

「あーもー カタカナ読みにくい！ なんでカタカナとかあるの？！」
そしたら冴縞は笑いながら，

「じゃあ お前シールってひらがなでかいてみて！！
しーる

・・・ なんか許せん」

「だろ??」それから 約10日間 ——

宿題が終わった。 私は冴縞に恋をしていた。

夏休みが終わり、学校が始まった。 行きたくない。
また。。。

でも 行かなきゃ。 変わらないといけない。
学校についた。 30分の道のりを。 席につき用意をしていた。 す
ると眞美の消しゴムがオチテキタ。 私は その消しゴムを拾い。 渡
した。 眞美は

「…ありがとう。」

といってきた。 少しずつ眞美との会話を増やした。

そして 私は少しずつ日常を取り戻した。

給食前、眞美と手洗いに行った。 その途中眞美が私に

「遥樹。 夏休み前ほんとごめんね」

アやまってくれた。 私は

「いいいいいよ 私も御免」

ね。

実は夏休み前 麻耶は部活をやめていた。 私と麻耶も前みたいに
戻れた。

私にはまだやらないといけないことがある。

冴縞。 私と冴縞はクラスが違う。 私は さりげなく冴縞を探してい
た。。。。

いた！！！！ なんと 隣のクラス。

冴縞はびっくりしていた。 その時は話さなかった。 その日は
部活があった。

私はバレーは普通な方。 冴縞は強い方。

部活が終わり、弥生と帰っていた。 そしたら 冴縞たちが
「えー！ あいつらまじで樋口とおなじ小学校？？へぼ」

（樋口：弥生。遙樹と同小出身（男））

「なんだって 冴縞？？」

わたしはびっくりして0.5秒くらい何もせず立っていた。

1 2 3 4 5・・・

我に帰った。

「はー！ー！ー！ー！ー！ 冴けんなよ！ー！ 誰がへぼだ！ー！」
ばしっ

「まて！ー！冴けんな！ 冴縞」

でも追いつかない。

その日から 私と冴縞の会話は

「へぼ」「ばか」

とかばかり。

でも 0.1度だけ バレーのアドバイスをしてくれた。

手を大き

く振って…

うれしかった。

一喜一憂しながら 私たちは0.2年生へとあがった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5885f/>

青春学校

2010年10月13日16時30分発行